

## 木曾地域の高校の将来像を語り合う会 発言要旨

令和元年9月6日（金） 午後6時00分

南木曾会館 大会議室

出席者

学校関係者（小中高校PTA代表者、中学校長）9名

- 1 開会
- 2 自己紹介
- 3 日程及びねらい
- 4 高校改革～夢に挑戦する学び～ 県教委～説明
- 5 高校の状況について 木曾青峰高等学校、蘇南高等学校からの説明
- 6 意見聴取

○出席者 自分は伝統工芸にかかわるろくろ細工をやっておりまして、最近、蘇南高校の技術の時間でろくろ細工に触れてみたいということで生徒と一緒にやっております。

ものづくりをしてみると、何かができるということにすごく感激を覚えるというか、何かをつくり上げていくという、そういうところがあると人間ってうれしいということを感じております。

山本学園という通信制の高校が来るようなんですが、地域にある学校、自然豊かなそういったところではできる、小さな学校だったらこれができるという強みというものもあると思いますので、そういった学校との連携みたいなのところがあってもいいと思います。

クラブ活動で、バドミントンはインターハイ出場というのを7年連続やっているんで、こういった強みも生かしていけたらと思います。

○出席者 うちの娘は今蘇南高校でお世話になっています。なぜ蘇南高校に行ったかという、入学の前の説明会を聞いたときに、先生方の印象がすごく手厚い感じがありました。

いざ入学してみると、個々に合った指導をしてくださったことで、自分で興味があったという分野ではあったんですけども、先生のお力添えもあっていろんな検定にチャレンジしまして、それが自信になってきたというところがありました。

私は中津川から嫁ぎまして、蘇南高校のいいところが余りわからなかったんです。

入学してみるといいところもたくさんありますし、ただそれがうまく伝わっていないのが非常に残念です。

学力も必要ですけれども、これからはただ勉強ができればいい、仕事ができればいいという人材よりも、ほかの方とうまくやっていくコミュニケーション能力が大事になってくると思います。

木曾には今2つしか高校はないけれども、これがなくなるとは、私は本当に1人の親として困るので、県境というものを利用しながら、中津川市からもたくさん入学者がいますので、そういうところも利用しながらやっていけるといいと思います。

○出席者 今の高校生はすごいおとなしい感じがして、真面目なんだと思うんですが、高校を卒業した子が去年、自分の勤めている会社に入ったけれども、コミュニケーション能力が足りないという子が入ってきてまして、仕事は一生懸命やるんですけど、周りのことがわからないとか。そういうコミュニケーション能力をつけた子供をもっと育ててもらいたいと思います。

自分で目標を持って高校へ入らないと、それから先の進路がまづ定まっていけない。なるべくなら中学生のときに自分はこういったものになりたいとか、そういうものを見つけてから高校に行って勉強を進めていかないと、学力も向上しないというのを感じています。

説明があったようなすばらしい教育方針がありますが、それを理解して子供が高校へ入っているかというのが一番大事になってくると感じています。

○出席者 自分の高校時代を考えますと、第10通学区から出るとは考えられなかったもので、3校から選ぶ状況でした。それから考えると、今は学校が選べるということで選択肢があって非常にいいなと思っています。

ただ、木曾郡内のことを考えますと、少子化でこれから大変だと思いますけれども、なるべく学校は残していただいて、選択肢は残していただきたいという希望です。

○出席者 私は、高校卒業後に就職をする気があったので、蘇南高校だと資格が取れるとか、就職した先ですぐ使える技術を身につけることができるという、強みがあると感じていたので蘇南高校に進学しました。私のときは木曾、山林、蘇南という3高校があり、大学を目指す子は木曾高校に進んでいたもので、将来こういう仕事につきたいとか、こういうことをやっていきたいとかということを考えると、木曾にも必ずこの2校は残してほしいというのが率直な希望です。

私が蘇南高校のときにもバドミントンは結構強かったので、そういった強みとい

うのを私たち保護者に提供していただけると、子供たちも何か自分たちでどう行きたいのかというのを親としっかり相談することができると思うので、木曽の高校を2校どうしても残してほしいのと、そういった強みをもっと出してほしいというのがあります。

もう1つは、一番は子供たちの児童数や生徒数が減少しているというところなんです。私は蘇南高校を卒業したときに、進学した先が県立の短大だったんですが、そこは少人数制の学校で、専門科をさらに勉強したい人たちが集まっていて、クラス1つが20人というところだったので、先ほど蘇南高校の説明でもあったとおり、少人数でも力を身につけることはできるし、そういうことを強みとして出してもいいと思います。

○出席者 木曽郡の高校のあり方について思うことは、少ない生徒だからこそできる魅力をつくる必要があるのではないかと思います。

学習環境のサポートの充実ということで、進学希望生徒に対し、大学受験を見据えた志望内容に応じたコースを設置することで大学進学合格率を上げることができるのではと思います。少人数制により生徒一人一人に対し熱心に指導ができます。進学率向上、進学指導に実績があることが高校選びの魅力につながると思います。

学習面だけでなく、社会に出てから求められる力や職業観などを身につけるため、グローバル教育や資格取得など先を見据えた実践教育を受けられる環境が必要になると思います。地域医療とコラボした講座形式の特別授業など、実社会で役立つスキルを磨く機会を与えることで就職活動に有利になり、就職率も向上すると思います。

ここでしか学べない専門学科の設置により、自分の興味ある分野に進むことができ、3年間という短い期間で実践的かつ本格的な内容を学び、その分野の即戦力になれます。生徒数が減少している中、より質のいい教育、環境を与えてあげられるようにしてほしいと思います。

○出席者 地元の中学生は地元の高校で育てたい、2校存続という立場で話をさせていただきます。

少人数学習のよさがあります。県教委からも話がありましたけれども、多様な学びに改造するには、それを支える職員が必要ではないかと考えています。なぜ40人にこだわっているのか、多様な学びを支えていく学習は深まっていけないのではないか。コミュニケーションが苦手なお子さんは、少人数の中でその力をつけていくということを考えるのであれば、少人数のコミュニケーション能力を高めて

いく職員が必要だと考えています。

他県では既に30人学級、35人学級がもう進められていますので、長野県も実施するべきだと思います。30人学級、1学年2クラスでもやっている県もあります。

それと、高校の魅力には、多様な学習をさせるとともに多様な部活動を支えるというのにも必要ではないかと思います。中学校では既に委任部活、それから合同部活という形で進んでおりますが、県の中高体連では進まないのか。吹奏楽をやりたい子が青峰高校に行かなければならない。なぜ蘇南高校で吹奏楽ができないのか。委任部活という形であったり、職員が増えることによって、一緒に活動することも可能ではないかと考えています。

魅力ある学校をつくることによって、中学生の他地域への流出を防げる。また他地域から木曾へ流入してくる生徒も期待できる。寮を整える必要もあるかもしれませんが、そういうことも考えながら高校改革を進めてほしいと思います。

○出席者 教育というのは本当に人を育てることだなと思いますし、魅力ある学校づくりというのが将来を展望していくときにとっても大事だなと思っています。

学校案内のリーフレットですけれども、見るからにもう魅力がある、そういうふうにつくっていただいている、とてもうれしく思いました。

私としては、これから中学生、受験を控えた特に中学3生、こういう子供たちの輝く姿で地元の学校に行って、こんなふうに学べるよというようなことを紹介して伝えていきななということを考えています。

○出席者 県教委の資料を見せていただいて、都市部の学校と中山間地の学校と分けて方針を出されたところが本当にありがたいと感じております。

学びの場の保障が必要で、例えば青峰高校と蘇南高校を1つにするような、そういう乱暴なことはあり得ないだろうと感じました。

義務教育を終えるときに初めて自分に合っている学校は青峰なのか、蘇南なのかと人生の決断をする。それぞれに特色があって、魅力があって、自分の人生を考えるときにどっちの高校が自分には一番いいだろうかと、一生懸命悩んで考える。この経験がまず絶対に経験発達の上でも必要だと思っています。1校しかなく、もうここしかない状況になったら、木曾の子はかわいそうだと思います。

もう1つは、多様な学びの場の保障ということですね。人数は少ないけれども、進路の希望の幅はすごい広くて、難関大学みたいなところを希望する子もいれば、勉強よりも何か手に技能をつけたいとか、そう考える子供たちもいて、その幅の広

さというのは、都市部であろうと中山間地であろうと同じだと思います。

そういう子供たちの将来を保証するためには、人数は少ないほうがいいではと思います。先ほどから少人数学習のよさというのはいろんなところで出されていますので、ぜひそんなところも聞いていただいて、中山間地については、少人数でもやっていけるような体制をとっていただければありがたいと思っています。

## 7 意見交換

○出席者 私が高校に入ったときには、岐阜県の坂下とか落合の子は結構いました。蘇南は岐阜との県境の高校というのがあって、何か県外へは周知されるような情報というのは提供されているんですか。

○蘇南高校 中津川市には現在13の市立中学校があります。そのうち9校が隣接県協定によって木曽郡の高校に通えます。

逆にこちらからは中津商業、中津川工業、あるいは坂下高校ですと福祉科とか、そういった木曽郡にはないところに行っているということになっています。校長か教頭で春と冬の2回はそれぞれの中学校の学校訪問をしております。

それから、蘇南通信を木曽郡の中学校3年生には全員配布で配っております。これは青峰高校も同じだと思うんですけども、蘇南では郡内だけではなくて、岐阜県の9校に蘇南通信を月に1回発行して配布をしているということになります。

それから、高校説明会や体験入学なども行っています。

○出席者 先ほど少人数学級の話が出たんですが、県教委の方は勉強のほうはされているのかどうかというところなんですが。

○県教育委員会 実施方針の冊子の中ではモデル校という呼び方をしておりますが、現在、県立高校「未来の学校」研究校として「少人数学級を研究する高校」を設けて、坂城高校を指定して、その実効性を研究しています。

○蘇南高校 部活動について、高校の部活動に対するスタンスをお話ししたいと思います。

部活動というのは、これは生徒会活動の一環に位置づけておりますので、本校の場合は生徒会に規約がありまして、まず志を同じにする生徒が何人かで集まって、ゼロからまず同好会をつくります。同好会で活動をしながら、ある程度活動ができていけば、それで人数もいるということになれば、部に昇格をしていく。こういうのが多分長野県のほとんどの県立高校の部活動のやり方だと思っています。基本的には生徒の自主活動。それを学校、我々職員が支援していく形になっているかと思っています。

○出席者 私は木曾山林高校の出身で、青峰に森林環境、インテリアとあると思うんですが、かなり特殊な学校だと思うんですね。私のころは結構志をもって森林環境というやつでやっていて、卒業した同級生なんかはみんなその関係で今頑張っているんですが、そういう特殊な学級だと思うのですが、その辺の強みというかそういうのはどうなんですか。もっと打って出るということはどうですか。

○木曾青峰高校 森林環境科とインテリア科の先生方は、実は中学校訪問は郡外をかなり回られて、下伊那から小谷までを回っています。先ほど体験入学の話もありましたが、結構郡外からもインテリア科や森林環境科で学びたいというような意欲ある子はいます。寮に入れるのは男子だけで、木曾郡には下宿がないということで、女子の遠い生徒さんは難しいなという状況ではあるんですが、そういう特色で出てはいます。

木曾の子たちに魅力を伝えて、地元で学んで全員ではないですが、働いてほしいなと思います。

## 8 閉会